

下垂体腫瘍の悪性度を示唆する形態学的変化とゲノム変異の NGS を用いた比較研究

1990年4月1日から2020年2月18日までに、当院の脳神経外科で下垂体腫瘍の手術を受けられた患者さん

研究協力をお願い

当科では「下垂体腫瘍の悪性度を示唆する形態学的変化とゲノム変異の NGS を用いた比較研究」という研究を行います。この研究は、他の研究機関との共同研究として、1990年4月1日から2020年2月18日までに日本医科大学付属病院脳神経外科にて、下垂体腫瘍のために腫瘍摘出術を受けられた患者さんの下垂体腫瘍の形態学的特徴とゲノム変異の関連性を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。本調査で用いた情報は、共同研究機関へ提供させていただきます。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：下垂体腫瘍の悪性度を示唆する形態学的変化とゲノム変異の次世代シーケンシングを用いた比較研究
研究期間：研究実施許可日～2024年12月31日
当院における研究責任者：日本医科大学付属病院 脳神経外科 田原 重志

(2) 研究の意義、目的について

神経内分泌腫瘍と考えられている下垂体腫瘍は、悪性度の高いものは稀です。ただ、その稀な悪性度の高い下垂体腫瘍においては、一般的に細胞増殖能の指標である Ki67 指標よりも形態学的特徴が浸潤、再発と関連していることが良く知られています。例えばケラチン小体のある sparsely granulated somatotroph adenoma や、ケラチンリングを伴う corticotroph adenoma が代表的な所見です。このような形態学的変化が浸潤、再発と関連するか、その分子的機序はまだ解明されていません。本研究では、悪性度の高い下垂体腫瘍における形態学的特徴とゲノム変異との関連性を NGS 解析により明らかにすることを目的としています。これまで下垂体腫瘍の悪性度は、手術摘出組織の病理学的解析による形態学的な特徴をもとに判断され、予後が推定されてきました。本研究により悪性度とゲノム変異の相関性が明らかになれば、下垂体腫瘍の予後推定手法の改善に繋がるものと考えられます。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類および外部機関への提供について）

1990年4月1日より2020年2月17日までに日本医科大学付属病院脳神経外科にて下垂体腫瘍摘出術を受けられた患者さんについて、以下の試料・情報を収集、使用します。

試料：手術時に切除した下垂体腫瘍組織

情報：診断名、年齢、性別、身体所見、検査所見（血液検査、画像、病理診断結果）

これらの試料・情報は、共同研究機関である東海大学医学部基礎医学系生体防御学教室へ手渡しにて提供されます。これらの試料は東海大学医学部基礎医学系生体防御学竹越研究室にて厳重に保管されます。また情報については、申請者が厳重に管理し、個人情報保護のため対応表を作成し匿名化します。研究期間中、対応表や匿名化した情報は別々にし、各研究室内の施錠可能な室内の PC において、ファイルにパスワードをかけて保管します。これらの試料・情報を用いて、次世代シーケンシングによるゲノム変異解析を行います。

(4) 共同研究機関（試料・情報を利用する者の範囲および試料・情報の管理について責任を有する者）

研究代表機関：東海大学医学部

研究全体の責任者：東海大学医学部基礎医学系生体防御学 教授 竹越 進

その他の共同研究機関：日本鋼管病院病理診断科

(5) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。その他、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(6) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表します。

(7) 日本医科大学付属病院における問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 脳神経外科 准教授 田原 重志

〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5

電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：6663

メールアドレス：tabara@nms.ac.jp